



だいぜんじ

すばらしい6年生の姿を見ました！

7月3日、6年生が「性の多様性」について学習している様子をたまたま参観しました。本来、性のあり方は人によってそれぞれ異なります。しかし、「男らしく」「女らしく」といった周りの固定観念によって、自分の性に対する不安や悩みを感じたり、排除や差別を受けたりする可能性も考えられます。だからこそ、「性の多様性」を正しく知り、周りの偏見についてのおかしさを感じるとともに、「偏見・差別」とたたかっている人々の思いや願いに共感することはとても大切です。学習の中で、子どもたちは、ビデオによる「LGBT(Q)当事者」の思いを語っている場面に出会いました。正直、私はドキドキしました。子どもたちがどんな反応をするのか、少なくとも数人はニヤニヤしたりバカにしたりするような表情を示すのではないかと。しかし、誰一人そんな子どもはいませんでした。全員が、真剣に見て、受け入れていたのです。うれしかったし、安心したし、頼もしく思えてきました。こんな子どもたちならきっと大丈夫です。今も社会の中にある様々な人権課題と向き合っていくことができるすばらしい大人になっていくと感じました。

【子どもの声より】

- ・私の「ふつう」は何だろう。「ふつう」が分からなくなった。私の「ふつう」を見つけよう。
- ・その人が勇気を出して自信をもって決めたことを支えるのは周りの人かなと思いました。
- ・そういう人がいるんだ。理解し合うことが大切だと思いました。
- ・「女の子だから～～をしなきゃいけない」とよく言われるけど、自分らしくを大切に・・・

ちなみに「LGBT(Q)」とは

L (レズビアン)・・・女性として女性を好きになる人 G (ゲイ)・・・男性として男性を好きになる人

B (バイセクシュアル)・・・男性を好きになることもあれば、女性を好きになることもある人

T (トランスジェンダー)・・・出生時に割り当てられた性別とは異なる性を生きる人、生きることを望む人

※その他に Q (クエスチョニング)・・・性自認や性的指向がわからない・明確でない人 もいらっしやいます。

あったかい言葉があふれる学校(社会)でありたいです！

6月の「いじめについてのアンケート」の集約を終えたところです。「友だちから、いやだなと思うことを言われたり、されたりしたことがありますか。」という問いに、全校で43名の児童が「ある」と回答していました。まずは正直に答えてくれていることはよかったです。その内容については、ほとんどが、「死ね」「消えろ」「うざい」「ばか」といった乱暴な言葉遣いです。「冗談で軽い気持ちで言ってしまった。」「～～をされたから、～～を言われたから、言ってしまった。」という理由でした。だれでも気づかないうちに人を傷つけてしまうことはあります。カーッとくなって冷静に対応できないこともあるかもしれません。しかし、相手の気持ちを押し量る力を育てていくためにも、まずは丁寧な言語環境です。私たち大人も気をつけていきたいものです。「まあ、そのくらいは・・・」というような軽い気持ちで、大きないじめや命に関わる問題に発展しないとも限りません。学校でも見逃さないように指導してまいりますので、ご家庭や地域でも、気になる乱暴な言動については、気づいたときに、適切なお声かけをお願いいたします。